

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち
教育の小径 No.144

2020 October

10月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生

今月のことば

熟読玩味

文章を何度も繰り返し詳しく読み、意味や内容をよく考え理解しながら、深く味わうことをいいます。

ライフライン教育のすすめ

- 私たちは、毎日飲料水や電気、ガスなどのライフラインの恩恵を受けて生活しています。しかし、現在、学校でライフラインに関する教育は十分行われていないのが現状です。
- ライフライン教育は、社会科での「飲料水、電気、ガス」に関する学習をはじめ、理科や家庭科などで行うことができます。

今月の
記念日木の日
(10月8日)

昭和52年(1977年)に、日本木材青壮年団体連合会が木の良さを見なおしてほしいと制定しました。「十」と「八」を組み合わせると「木」になります。

ライフライン教育とは何か

ライフラインという用語は耳にしたことがあると思いますが、「ライフライン教育」という言葉はほとんど聞いたことがないでしょう。ライフラインとは、都市生活に必要な不可欠な水道や電気、ガスなどの供給システムのことです。このことを日頃の生活であまり意識することはありませんが、これらは私たちの生活や産業活動を支えています。近年、わが国において風水害や土砂崩れ、地震や火山の噴火など自然災害が多発し、甚大な被害が出ています。特に、水道水が来なくなったり、電気やガスが止まったりすると、通常の家生活がストップし、社会の機能が麻痺状態に陥ります。

水道が止まると、給水車が配置されるものの、蛇口から水が出ない生活が長く続くと不便です。昨年は、台風19号によって、電気を送電する鉄柱が倒れ、多くの地域は長い間不便な生活が強いられました。また、熊本や大阪の地震では、ガス管が破壊し、復旧に時間がかかりました。

わが国において自然災害が多発していることから、ライフライン教育がクローズアップされています。ライフラインに関する教育では、次のような指

導内容が考えられます。

- ・私たちは日頃から飲料水や電気、ガスなどの供給システムの恩恵を受けていること
- ・災害や事故などが発生して一旦破壊されると、予想を超えた不便な生活に直面すること
- ・自然災害の防止や減災に向けて、関係機関は対策や準備をしていること
- ・各家庭においても日頃から心構えや準備が必要であることなど

ほとんどの住民は、公共の水道水や電気、ガスなどライフラインの恩恵を受けています。にもかかわらず、ライフラインに関する教育はほとんど行われてきませんでした。

ライフラインに関する指導場面

学習指導要領にライフラインに関する記述は、社会科の4年に1か所だけみられます。そこでは、「飲料水、電気、ガスを供給する事業」について取り上げよう示されています。

これらのなかから一つを選択するようになっており、ほとんどの学校は「飲料水」を取り上げ、「飲料水はどこからどのように家庭や学校などに届けられているのだろうか」という学習問題で展開されています。多くの場合、「飲料水」の学習で終わっており、ここに実践

上の課題があります。

「飲料水、電気、ガス」の中から選択して取り上げるようになってるのは、これらに「安全で安定的に供給されている」というキー概念に共通性があるからです。「飲料水」を取り上げて獲得したキー概念は電気やガスに応用・転移することができます。こうした深まりのある学習を展開することにより、子どもたちはライフラインの観点から社会の仕組みについての理解を深め、電気やガスといったエネルギーにも関心をもつようになります。

「飲料水、電気、ガス」についての学習は、4年の県内を対象にした「自然災害からくらしを守る」学習や5年の国内を対象にした「自然災害から守る」学習に発展させることができます。複数学年で、ライフラインを維持・管理する行政や事業者など関係機関の働きを理解させることができます。

ライフラインはエネルギー教育や環境教育とも関連があります。理科での電気や家庭科での調理器具に関する学習場面で、社会科での学習内容と関連づけながら指導することができます。「総合的な学習の時間」を活用して、身の回りのライフラインの役割について、関係の資料館などを見学・調査したり、関係機関の人から話を聞いたりして詳しく調べることができます。

授業での生徒指導

学習指導に対して、生徒指導(生活指導)という言い方があります。かつて生活指導は、領域概念か機能概念かという議論がありました。学習指導の場面でも生徒指導は行われていますから、指導場面によって使い分けることはなくなりました。

では、授業の場面で生徒指導を行うとはどういうことでしょうか。かつて授業中、騒いでいた子どもが次のようにつぶやいたといっています。

「授業中、冷たくて固い椅子にじっと座ったまま、理解できない難しいことを毎時間静かにして聞いている僕の気持ちが先生にわかるか。」

このつぶやきは「もう少し僕にもわかるように指導してほしい。僕の方を見て声をかけてほしい。」と訴えているようです。理解できないことを長時間聞くことは、大人でも苦痛です。集中力が欠き、騒ぎたくもなります。

授業中に居場所があるとは、教師が一人一人に出番をつくることです。友だちとの関わりをつくることです。誰でも学級や友だちの役に立っていることに気づくと嬉しくなります。特につまづいている子ども、学習に遅れがちな子どもには温かく寄り添い、小さな進歩にも励ましや称賛の声をかけながら助言します。気にかけている教師の姿勢と気持ちは子どもたちに伝わります。基本は一人一人への愛情です。

子どもは教師から見守られていることに気づくと、安心感が増幅し、学習に専念できるようになります。授業は学習指導とともに、生徒指導の重要な場面でもあります。一人一人への温かいまなざしと寄り添った言葉かけが子どもを健全に育てます。

教育の動向

学習評価に関する資料

国立教育政策研究所は、各教科等における『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料を作成し、その内容を公表しています。

本参考資料は、総説と教科等から構成され、総説は各教科等共通になっています。総説では平成29年に改訂された学習指導要領を踏まえた学習評価の改善や学習評価の基本的な考え方が解説されています。

これを受けて、各教科等ごとに「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順や単元ごとの学習評価の具体的な事例が紹介されています。

国語科を例にすると、「指導と評価の計画から評価の総括まで」の事例をはじめ、「『主体的に学習に取り組む態度』の評価」「『知識・技能』の評価」「『思考・判断・表現』の評価」といった観点別評価に焦点を当てた事例が4つ程度紹介されています。

学習評価と聞くと成績評価(評定)を思い浮かべます。「指導と評価の一体化」とは、参考資料の「はしがき」に述べられているように、「教育課程を編成・実施し、学習評価を行い、学習評価を基に教育課程の改善・充実に努める」ことです。評価は指導のゴールではありません。次の指導へのステップとして捉えることが「指導に生きる評価」の趣旨です。評価と評定と混同しないようにしたいものです。

北 俊夫の「実践と研究」の足あと

12

授業にイラストを取り入れる

社会科の授業でのこと。調べたことをまとめる場面でした。ある子どもが「まとめは文章でなければいけないんですか」と質問したのです。質問の意図を尋ねると、「絵で描きたい」というのです。わたしは「いいですよ」と即答しました。描いたものを見ると、その子にしか描けない個性や思考が見事に見える化されていました。子どものまとめる方法や手段は多様にあること、それは子どもによって違ってよいことに気づいたのはこのときです。

縄文時代の村の様子をイラストで表していたときです。生活していた人を目を向けていたある子が、女の子を描き始めようとしたときです。突然鉛筆が止まりました。理由を聞くと、「当時の女の子は、ズボン履いていたのか、

スカートだったのか」と聞いてきたのです。わたしは即答せず「よくわからないね」とだけ答えました。

この子どもはイラストに描き表そうとしたことによって、改めて不明なことや調べてみないとわからないことに気づいたのです。後日、「資料館で調べてきました」と報告にきました。

明治維新の世の中のイメージをイラストで描かせたときです。ある子は、たらいにスポイトで赤インクを垂らした様子を描き、表面だけを赤くしました。イラストを描いた真意を聞くと、「世の中の見えるところは変わってきたが、人々の意識までは変わってなかった」というのです。

その後もイラストを取り入れた実践は繰り返し行いました。成果は『イラストを取り入れた社会科授業』(明治図書)としてまとめ世に問いました。

INFORMATION

ぶんけいの冬休み教材

ぶんけい

各教科の復習に!



- 1、2年 16ページ …… 各310円
- 3～6年 24ページ …… 各320円

国語・算数を重点的に!



- 1～6年 16ページ …… 各230円

あわせて使える別冊問題集!



- 1～6年 12ページ …… 各50円

編集後記

144号より編集担当が交代になりました。「教育の小径」は平成20年11月創刊。11月より13年次に入ります。今後も皆様に気持ち良く読んでいただけるように頑張りますので、引き続きご愛読のほどよろしくお祈りします。(F記)



企画・編集: ぶんけい教育研究所
発行: 株式会社文溪堂
発行日: 2020年10月1日